

# 広島交響楽団 第444回定期演奏会

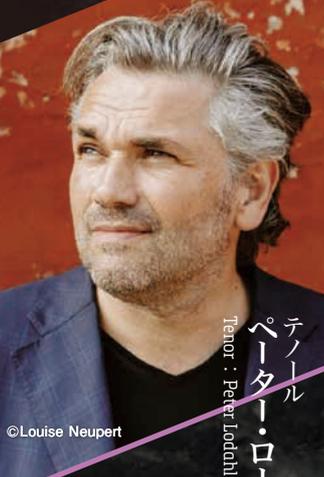
Hiroshima Symphony Orchestra The 444th Subscription Concert

ソプラノ  
隠岐彩夏  
Soprano: Ayaka Ori



©T.Tairadate

メゾ・ソプラノ  
加納悦子  
Mezzosoprano: Etsuko Kanoh



テノール  
ペーター・ローデル  
Tenor: Peter Lodahl

©Louise Neupert

バリトン  
ユーリ・ハゼスキー  
Baritone: Yuri Hadevskiy



©Serhii Bereziak

2024.9.4 (水)

18:45開演 [17:45開場] Wednesday September 4, 2024  
Start 18:45 [Open 17:45]

広島文化学園HBGホール 広島市中区加古町3-3

Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

コンサートマスター: 四方恭子、北田千尋  
Concertmaster: Kyoko Shikata, Chihiro Kitada

主催 / 公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社

共催 / 音楽は平和を運ぶ

助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))  
独立行政法人日本芸術文化振興会



公益財団法人 合人社財団

シエーンベルク(生誕150周年)  
「浄められた夜」 作品4  
Schoenberg (150th Anniversary): Verklarte Nacht Op.4

ブルックナー(生誕200周年)  
ミサ曲第3番 へ短調 WAB 28  
Bruckner (200th Anniversary / Birthday): Mass No.3 in F minor WAB 28



指揮  
ヘンリック・シェーフアー  
Conductor: Henrik Scherfer

合唱  
東京オペラシンガーズ  
Chorus: Tokyo Opera Singers

## 親愛なるブルックナー

ブルックナー200歳の誕生日を「ミサ曲第3番」で祝福する。ベルリン・フィルのヴィオラ奏者から指揮者に転向、現在ストックホルムの Folk Opera 歌劇場のシェフを務める、元・広響首席客演指揮者のヘンリック・シェーフアーを招き、日本屈指の合唱団、東京オペラシンガーズを迎え、豪華ソリストたちとともに、感謝の歌を捧げる。前半はシエーンベルクの生誕150周年を記念し、19世紀音楽の終着点と言える「浄夜」を対峙させた。

チケット(税込/全席指定)

S席5,800円・A席5,200円・B席4,500円(学生1,500円)

※学生席は小学生以上25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみで取り扱い)

チケット発売日/2024年7月4日(木)

プレイガイド/

ローソンチケット(Lコード:60004)、チケットぴあ(Pコード:265-255)、広響事務局

プレミアム協賛 / 中外テクノス

後援 / 広島県、広島市、広島市教育委員会、NHK広島放送局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、ちゅびCOM、月刊ウェンディ出版局

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。  
※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。  
※開演時間に遅れた場合、入場に制限がございます。

お申し込み・お問い合わせ

広響事務局 TEL:082-532-3080 <http://hirokyo.or.jp>

広響公式HP



# 親愛なるブルックナー

## 指揮

ヘンリック・シェーファー Conductor : Henrik Schaefer

オペラとコンサートの双方で世界的に活躍を広げており、イェテボリ歌劇場の音楽監督を経て、現在はストックホルムのフォルクオペラ歌劇場で音楽監督を務める。2008年~2014年広島交響楽団の首席客演指揮者。スウェーデンのヴェルムランド歌劇場では、ワーグナーの《バルシファル》の好演がきっかけとなり2007年~2013年首席指揮者を務め、《ニーベルングの指環》全4作品上演では19世紀当時の楽器を用いて演奏し、その国際的な名声を高めた。



ヴァイオラ奏者として22歳でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の最年少メンバーとなる。演奏活動の傍らライプツィヒ音楽大学で指揮を学び、クラウディオ・アバドの指名で2000年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のアシスタント・コンダクターに就任し、《バルシファル》、マラーやブルックナーの交響曲を指揮。2003年、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と《春の祭典》でデビュー。これまでに、デンマーク国立交響楽団、オランダ・フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルト管弦楽団、ライプツィヒ歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー等に客演している。

## メゾソプラノ

加納悦子 Mezzosoprano : Etsuko Kanoh

東京藝術大学大学院修了。ドイツ国立ケルン音楽大学で学び、同大学在籍中にケルン市立歌劇場のオペラスタジオ研修生となる。1994年同歌劇場と専属契約。J.コンロン等の指揮で『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキ等40以上の演目に出演。ドイツ/シュトゥットガルト州立歌劇場、オランダ/ゲルギエフ・フェスティヴァル、ベルギー/フランドルオペラ等ヨーロッパ各地で活躍。国内でも、びわ湖ホール・神奈川県民ホール「ばらの騎士」オクタヴィアン、『ワルキューレ』フリッカ、二期会「ホフマン物語」ニクラウス/ミューズ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、新国立劇場「セビリアの理髪師」ベルタ、『ジュリオ・チェザレ』コロネーリア、C.デュワ指揮「サロメ」ヘロディアス等出演。コンサートにおいても、ルビアン放送響とのマラー「千人の交響曲」、ミラノ放送響とのモーツァルト「レクイエム」の他、ベートーヴェン「第九」、マラー「復活」「大地の歌」等出演。ドイツ歌曲にも定評があり、ベルク、シェーンベルクを中心としたプログラムのリサイタルは、NHKでも度々放送されている。



令和元年度(第70回)芸術選奨文部科学大臣賞(音楽部門)受賞。二期会会員。

## バリトン

ユーリ・ハゼスキー Bariton : Yuriy Hadzetsky

ウクライナ出身のバリトン歌手ユーリ・ハゼスキーは、2019/20、2020/21シーズンにチャーリッヒ・オペラハウスの名高い国際オペラ・スタジオに在籍し、ファビオ・ルイーゼ指揮ロバート・カーセンの新制作『アラベラ』のドミニク伯爵、『コラライン』のガスターキント、『ダスタッフェレ・シュナイダーライン』のラトゲーパー/ヴィルトシュヴァイン/リーゼ、『マンマよ、万歳!』のプロコロなどを演じた。昨シーズンは、ロベルト・フォレス・ベゼス指揮テッド・ハフマンの新演出『ロメオとジュリエット』のメルケター役でチャーリッヒ・オペラハウスに戻った。ハゼスキーは、ミコラ・リセンコ・リヴィウ国立音楽アカデミーと、ワルシャワのポーランド国立歌劇場ヴェルキ劇場のオペラ・アカデミー若手人材育成プログラムで学んだ。また、エクス・アン・プロヴァンス音楽祭アカデミーの2019年度ヴォイス・レジデンス、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルの2021年度アカデミア・ロッシーニアーナ「アルベルト・ゼッダ」、トーマス・ハンブソン芸術監督のもとハイデルベルク国際歌曲センターのリート・アカデミーに参加するための奨学金を授与されるなど、数々の権威あるトレーニング・プログラムに参加している。2023年には、世界的に有名なソプラノ歌手ルネ・フレミングの指導のもと、カーネギーホールのエリート・ソングスタジオ・プログラムに参加した。来シーズンはリアー劇場で、グリエルモ、ベルコレ、ハーレキンの役で出演する。また、ビルケント交響楽団とブラームス『ドイツ・レクイエム』にソリストとして参加する。



## ソプラノ

隠岐彩夏 Soprano : Ayaka Oki

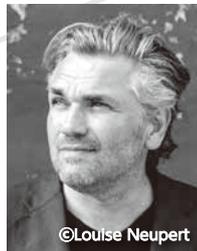
歌曲やオトリオに幅広いレパートリーを誇り、多くのコンサートでソリストを務めるソプラノ歌手。その清冽かつ印象的な声は、聴衆の心を捉えて離さない。青森県出身。岩手大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士、博士後期課程修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてニューヨークにて研鑽を積む。友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、文部科学大臣賞受賞。日本音楽コンクール声楽部門第1位、岩谷賞(聴衆賞)、E.ナカミチ賞受賞。三菱地所賞、東奥文化選奨など受賞多数。インバル指揮東京交響楽団《第九》、ノット指揮東京交響楽団《第九》、下野竜也指揮広島交響楽団「平和の夕べ」等数多くのオーケストラコンサートに出演。J.S.バッハの4大宗教曲、ヘンデル《メサイア》《セメレ》セメレ役、ハイドン《天地創造》、モーツァルト、ブラームス、フォーレ、ドヴォルザーク《レクイエム》、メンデルスゾーン《パウルス》《エリヤス》、マラー《交響曲第4番》等のソリストを務める他、Eテレ「クラシックTV」や「デズニー・オンクラシック」等幅広く活動している。矢部達哉、横山幸雄両氏との共演によるCD『愛しの夜』(キングレコード)はレコード芸術誌で特選盤に選出される。



## テノール

ペーター・ローデル Tenor : Peter Lodahl

デンマーク出身。2020年にドイツ・グラモフォンからリリースした『詩人の恋』でオーバス・クラシック賞の「シンガー・オブ・ザ・イヤー」および最優秀芸術歌曲賞を受賞。主なハイライトとして、ドレスデン・ゼンパーオーパーでのジョン・ハービンズ《グレート・ギャツビー》でタイトルロールを務め、アンナ・ネトレブコとは《ラ・ボエーム》の詩人ロドルフォ役で共演している。また、ザルツブルク祝祭大劇場でのヴェルディ《レクイエム》をはじめ、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、フランクフルト歌劇場、リンツ・ブルックナーハウス、デンマーク王立劇場等に登場している。これまでに、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、デンマーク王立管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、デンマーク放送交響楽団等のオーケストラと、ケント・ナガン、フランツ・ウエルザー=メスト、キリル・ペトレニコ、フランス・ブリュッヘン等の指揮者と共演している。



2016~2019年にはコペンハーゲン・オペラ・フェスティバルの芸術監督を務め、2019年よりコペンハーゲン・フィルハーモニー管弦楽団の監督を務める。2013年、デンマーク女王マルグレーテ2世からダンネブロ勳章を授与された。

## 合唱

東京オペラシンガーズ Chorus : Tokyo Opera Singers

1992年 小澤征爾指揮、蛭川幸雄演出で話題を呼んだ歌劇「さまよえるオランダ人」の公演に際して、世界水準の合唱をという小澤征爾



の要請を受け、東京を中心に活躍する中堅、若手の声楽家によって組織された。当公演の合唱は圧倒的な成果を上げ、その評価により同年、第1回サイトウ・キネン・フェスティバル、バイエルン国立歌劇場日本公演に招聘され、再び高い評価を得た。

「セイジ・オザワ・松本フェスティバル」「東京・春・音楽祭」を活動の中心に置くほか、ウィーン・フィル(S・ラトル、小澤指揮)、シカゴ交響楽団(R・ムティ指揮)など多くの著名オーケストラの来日公演に出演。海外での評価も高く、1999年エディンバラ音楽祭、2018年上海国際芸術祭、2019年上海交響楽団演奏会、2020年北京国際芸術祭「相約北京」に出演。

2024年には広島交響楽団と3演目の共演が予定されている。

## 次回予告 第445回定期演奏会

2024.10.11 (金) 18:45開演  
[17:45開場]

広島文化学園HBGホール 指揮:準・メルクル ヴァイオリン:ポール・ホアン

リヒャルト・シュトラウス(生誕160年):ヴァイオリン協奏曲ニ短調作品8  
ブルックナー(生誕200周年):交響曲第9番ニ短調 WAB 109(ノーヴァク版)